

## 4-4 原価改善技法

VE、IE、QC、テアダウン、標準化・共通化など、さまざまな原価改善技法があり、これらの技法を組み合わせることによってさらなる効果が期待される。

## 4-5 原価見積技法

部品の原価を見積る技法としては、

- ①重量、大きさ、複雑さなどをパラメータとした簡便な価格グラフ
- ②コストドライバー（コストに影響を与える主要因）による重回帰分析を活用した計算ソフト
- ③外注加工品の材質、形状、加工精度などを入力して、材料費や加工工数などを積み上げる方式のアプリケーションソフト

など、各種存在する。

また、原材料価格や為替変動など一企業では管理制御できない原価要素については、あらかじめ想定価格や為替想定とそれらの許容変動幅を設定して目標原価管理を行っていく必要がある。

## 5 ノウハウの蓄積、共有化、活用

個人の業務を通じて得たノウハウを組織的に活用するには、それらノウハウの蓄積、共有化、活用の仕組みが必要である。特に、連携作業を多く必要とする設計や調達の業務では、部門横断的な情報共有化の仕組みが必須である。さらに、企業グループ間でもこの仕組みがあればより有効である。

### 5-1 ナレッジマネジメントの条件整備

ノウハウの蓄積、共有化を機能させるには、以下のように目的に応じた条件整備が重要である。

- ①電子情報化
- ②ドキュメントのフォーマット化による情報の体系化
- ③情報の検索性向上
- ④イントラネットによる共有
- ⑤ツールを活用したノウハウの共有と DB メンテナンス